

シムックス通信

- 125号 -

2011年11月16日(水)
 発行者
 シムックス株式会社
 横浜市都筑区大熊町191
 TEL: 045-474-4600
 FAX: 045-474-4602
<http://www.cimx.co.jp/>
cimx_newsletter@cimx.co.jp

大塚商会本社ビルに ESpDRAGONを導入!

2003年に竣工した大塚商会本社ビルは、環境を重視したビルです。BEMS(ビル管理システム)の導入はもとより、ISO14000、CASB E(ビル環境基準)クラスAを取得し、屋上緑化、LED照明など節電への取り組みを行ってきていました。

大塚商会では、さらなる節電の為に「東大グリーンICTプロジェクト」で開発された「FIAP」プロトコルを採用した電力可視化システムを導入しました。これは民間ビルとしては世界初です。データはホームページに公開され、社員にはiPadが配られ、どこにいてもデータをリアルタイムに見ることができるようになりました。

その結果、7月～9月の期間に、ピーク時で30～40%以上、月単位の電力消費量が14.8～15.1%の節電に成功しました。新しいICT技術を駆使して困難を克服されたことに敬服させられます。

CIMXは、FIAPサー

バ、ESpDRAGON、iPad用GriValueシステムを提供しています。(添付資料1参照)

業務効率を落とさない節電、ご存知ですか?
 節電と聞いて、急ブレーキを踏むような対策で業務効率を落とさずにオフィスを強くできますか?

ロケーション	昨日合計	前日比	ムダ
10階 総務	37.0 kWh	↓ 15%	0.0 kWh
10階 営業	31.0 kWh	↓ 24%	0.0 kWh
10階 コンサート	42.3 kWh	↓ 4%	0.0 kWh
10階 PCサーバ	9.9 kWh	↓ 1%	0.0 kWh

上記のグラフは、大塚商会が取り組む電力使用状況を表したサンプルです。使われている電力を用途別に集約し、合算しています。なお、このグラフは本社ビル10階のみとなっています。

この夏、さまざまなオフィスで「節電」が実施され、多くの人が暑く、業務効率が格段に下がってしまうことを実感されたのではないのでしょうか。大塚商会では目で見てわかるカタチで、オフィスの節電を考えます。

大塚商会 ホームページ (大塚商会様のご許可を頂き掲載しております)

コラム 創業時の理念

大塚商会本社ビルの見える化をするに当たり当初から相談をされていた。そこで一番大きな問題となったのは、既存のBEMS(ビル管理)システムをどうするかであった。当初、BEMSは閉じられた世界なのでデータを取り出すのは困難と思われていた。仕方なく、分電盤に新しくネットに繋がる電力計測器を付けるという案が主であった。

しかし、私はそれまでの経験でBEMSが閉じられているのは技術的な問題ではなくビジネス的な問題からであり、BEMSを提供しているベンダー企業とユーザーが話し合いをして合意を得られれば技術的な面はクリアできると考えていた。

BEMSで取れていない部分だけに新たな計測器を付けることで投資コストが大幅に減少できるというメリットがユーザーに生まれる。ただこのようなケースは民間企業ビルでは例がなかった。

運がよかったのはGUTP参加企業のNEC、パナ電工の計測器が導入されており、同じく参加企業であるユビテックとCIMXが協力しあう形でプロジェクトを組むことができたことである。何よりも、大塚商会さんの決断が一番

大きなキーとなったことは言うまでもない。

既存のシステムのデータをネットに繋げていく方法は、急に思いついたものではなく二十年以上前にCIMXを作った時から掲げてきた方針のひとつであった。たまたま出てきた昔の書類(添付資料2参照)には「既存システムとの整合性を重視」していくと書かれている。

コンピュータの進歩は日進月歩である。それはいいことであるが、ユーザーはその都度新しいものに買い換えなければならぬ。しかし、コンピュータや機械を全て同じように毎年買い換えることはコスト的に不可能である。そのため、古い機械やシステムと最新のITシステムとの共存の必要性を工場の現場から見通し、そのユーザーとベンダーとの隙間の商品を作っていくという気持ちから掲げた言葉である。

その対象が工場のNC工作機械からビル管理システム、変電システムに代わっただけの話である。大事なことはユーザーの立場でものを考えていくということである。このCIMXの姿勢を変えずにいられることは何よりも幸運なことだと感謝している。

中島 高英

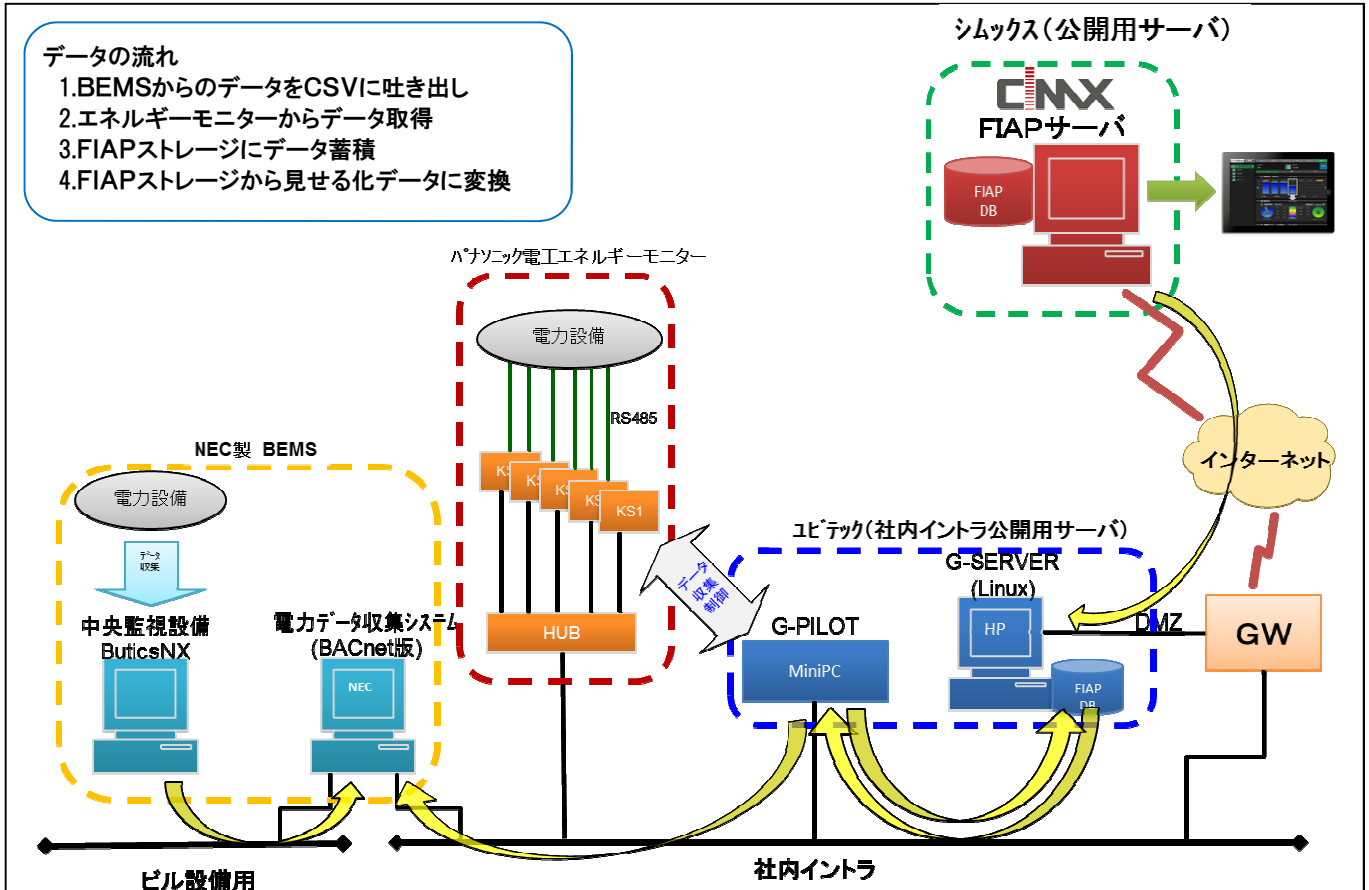


資料1

世界初 FIAP民間ビル 適応事例

本システムは、東大グリーンICTプロジェクトが開発したIEEE1888「FIAP」(Facility Information Access Protocol)が使用されています。FIAPはビルファシリティのセンサーデバイスやデータについての国際標準プロトコルです。弊社ではFIAPサーバも提供しています。

大塚商会本社ビル、見える化システム導入(構成)



導入された
iPad用Gr-Value
10Fフロア画面



こちらについての詳しい資料をご希望の方は、下記までご連絡ください。
info@cimx.co.jp



資料2

CIMX 創業時の思い出アルバム

● 当時の書類 ●

シムックスの基本姿勢

- 現場を熟知すること
- トータルコストへ注目
- 既存システムとの整合性を重視
- 情報サービスを提供

現場から生まれたシステムだから…

段階的に導入ができる

システム全体を考慮できる

信頼性がある

旧来の設備を無駄にしない

教育時間最短

● 1987年 夏 ●

NCリンクスの通信テストを夏休み中の中島工機の工場で行っていた。冷房が止まっていたので、Tシャツ、短パンのクールビズ姿。

● 1988年 春 ●

NCリンクスが完成して、いよいよ現場に導入。中島工機の金型工場。当時はIBM5500, OS/2の高いパソコンを使っていた。

